

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100102		
法人名	(株)快GO TOKAI		
事業所名	グループホーム 住ま居る		
所在地	岐阜県多治見市笠原町2455-42		
自己評価作成日	平成25年11月6日	評価結果市町村受理日	平成26年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2191100102-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも住ま居るで暮らせる」という観点から、ハード面では全館バリアフリー、オール電化となっており、重介護に対応できるようリフト浴が設置されている。またソフト面では、専従の看護師が主治医、薬剤師等の医療従事者と密に連携し、ターミナルケアを視野に入れ、日々の健康管理など質の高いケアがなされている。介護職員の研修体制も充実しており、ホームでの勉強会、外部での研修の機会を多く確保している。この事により、質の高いサービスが提供でき、利用者、ご家族が安心して過ごせるよう、積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、名称である「住ま居る」そのままに、笑い声の絶えない、穏やかな生活を送っている。職員は、質の高いサービスを提供し、思いに寄り添い、優しく丁寧に声をかけ、常に笑顔で接している。利用者の身体能力に合わせ、家事や趣味など、得意なことを自主的に担い、生き生きとした表情を見せている。機能訓練では、リハビリ体操やレクリエーション、風船バレーなどを日常的に行い、心身の活性化に取り組んでいる。管理者・職員は、利用者、家族との信頼関係を築き、満足と笑顔のある暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事務所に掲示し、出勤時に各自確認して業務にあたるよう、指導している。またケアの実践から作った「住ま居るの合言葉」を朝の申し送り時に唱和していくことで、理念の共有と実践につなげている。	理念は、安全かつ高水準の介護を含め、6項目を事務所に掲示し、出勤時に全員で確認している。ゆっくりと優しく、利用者の思いに寄り添いながら、その人らしく、当たりまえな暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、地域の祭りへの参加、地域の幼稚園、地域他施設への定期的な交流に加え、今年は地域の高齢者サロンへの参加交流も行ってきた。	町内会員として、地域の行事参加や公民館で手芸品を出展している。幼稚園児や地元ボランティアとの交流も継続し、地元の高齢者サロンとも交流を深めている。地域に向けて、介護相談窓口を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護相談等を受け付け、適切な事業所、医療機関を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、関係者、市職員、地域包括支援センターの職員等と、地域にも参加を呼びかけ、意見を伺い事業所の質の向上に活かしている。	会議は、3ヶ月ごとに開催し、事業所の現状や活動を報告し、意見を交わしている。利用者の健康管理や生きがいつくり等、活発に話し合い、サービスの質の向上に反映させている。	会議メンバーに、地域関係者の出席が得られるよう、関係先へ働きかけている。その進展に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の相談、意見交換等は密にできている。また経営者は介護認定審査会委員、多治見市ケアマネージャー協議会役員を行っているため、その場を通じても意志の疎通が図られている。	市へは、事業所の実情を定期的に報告し、助言を受けている。運営者は、各委員会の要職を勤め、協力関係ができています。市主催の、地域密着型事業者の意見交換会で、情報交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員のミーティング等でも話し合っている。また身体拘束、高齢者虐待についての資料、マニュアルを置き、活用できるようにしている。	身体拘束や虐待の禁止マニュアルを整え、拘束をしないケアを実践している。不穏な行動には、声かけと見守りで対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、ホーム勉強会の開催を通じ、全職員が理解している。また、管理職は注意を払い防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止の徹底と同様、研修会への参加、ホーム勉強会を通じ、把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に密に文章で説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関には、意見箱を設置し意見がでやすいようにしている。今年は意見を出しやすいように、文書を送り郵送対応でご家族から意見を伺えるような取り組みを行った。また運営推進会議、家族会を通じ意見を伺っている。	家族の面会時や手紙で、意見・要望を出してもらっている。利用者の食事の好みや、家事手伝いなどの意欲に応え、自立した生活が送れるように反映させている。家族からも同じような意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、責任者会議、全体会議を開催し、職員の意見が反映されるように努めている。	月例の全体会議を開き、意見・提案を話し合っている。おむつ外しの工夫や、業務上の悩み、看取り支援の課題等、検討している。それらを責任者会議に図り、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との意思疎通を図り、風通しの良い職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、外部での研修の参加、毎月の勉強会を開催し職員のレベルアップ、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学、イベント等への参加を通じネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のホームの見学、ご家族、担当ケアマネからの情報収集を行い、本人の嗜好、趣味等を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望、不安点等を聴きながら、家族の思いを受け止め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望等を把握した上で、入所が本人、家族にとって望ましいか等、担当ケアマネ等法人外部とも連携し、必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩と位置づけ、職員の立場をわきまえた上で、よりよい関係づくりができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割、ホームの役割を把握し、家族との関係が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くの方が入所前の馴染みの場所などに出向く事等は少ないが、以前利用していた美容院や接骨院を利用したい方へは継続できるように支援を行っている。ご家族以外の面会者については、家族と相談しながら対応している。	近所の人や嫁いだ子ども達が訪れている。馴染みの美容院、喫茶店へ出かけ、住居地の老人会へは、継続して参加をしている。また、家族の協力で、自宅の仏壇を拝みに行ったり、墓参りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士が共に生活しているという事を理解した上で、利用者同士がよりよい関係を築けるよう、職員が間に入り援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた利用者様が気軽に来所できるような環境を整えている。また他界された利用者様のご家族が時折来所されたり、介護相談を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関係者からの情報収集を行い、入所前の暮らし方等の把握に努めている。また日々の言動、行動を観察し全体会議などを通じ情報の共有に努めている。	入居時に、家族やケアマネジャーから生活歴を伝えてもらい、加えて、日々の言動からも、思いを把握している。趣味や嗜好、行動パターンを受け入れ、生き生きとして暮らせるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に所定の記録用紙に記入して頂き、入所前の暮らしなど、ご本人の歴史の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL等のアセスメントを行い、有する力、心身状態の把握に努め、介護記録に記載し情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族はもとより、主治医、看護師、介護職員がそれぞれの視点から意見を出し合い、介護計画の作成に関わっている。	本人の状態をアセスメントして、全職員が計画案に加わっている。サービス担当者会議では、必要な関係者、専門職に意見を求めている。自立を支え、楽しさを感じてもらえるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など個別の介護記録に記載し共有出来ている。また申し送りノート等を活用し情報の共有に努めている。また日々のケア、介護計画に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的な痛みの緩和や拘縮の悪化予防などの必要があるご利用者には、訪問マッサージの利用に繋がったことがある。又在宅復帰された利用者様に関し、法人全体でも支える仕組みを整えている。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりが持てるよう、定期的なボランティアの協力や、近隣の幼稚園や地域の他施設との交流、地域の行事に参加している。最近では地域の高齢者サロンへ参加する機会もでき、馴染みの関係も出来てきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医の往診が月に2回あり、その他に必要な応じ適切な対応を行っている。また入所前のかかりつけ医への受診等の希望があった場合には柔軟に対応している。	本人・家族の希望で、かかりつけ医は、全員が協力医に変更している。他の医療機関への受診は、家族と協力して、柔軟に対応をしている。協力医による、月に2回の訪問診療があり、安心な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師が日々健康管理を行い必要に応じて介護職員へ対応の仕方など説明し適切に対処している。また介護職員からの情報提供も適切に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	事業所の看護師を中心として、利用者様が入院した際には、スムーズに対応できるように、入院先の医療機関と連携を図り、情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、重度化に関する指針など密に説明を行い、同意を得ている。また本人、家族の方針を伺っている。必要に応じて関係施設への紹介も行っている。	重度化や終末期(看取り)の指針を整えている。家族の意向を優先し、段階的に話し合いを重ね、医療行為のない状況での看取り体制を整え、これまで数例を支援している。	看取り介護には、職員個々の受容の有り様やケア技術などを、体験事例から学び、共有できるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な急変時に関する勉強会、地域消防署による研修を受講し、急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防署による避難訓練を実施。災害対策として、地域住民、地域企業への協力をお願いしている。	年に2回、消防署の立会いで、火災訓練を実施している。夜間想定での避難や消火、通報などを行い、地域との協力体制を築いている。備蓄は、近くの商店から援助が受けられるように、話し合いができています。	過去の災害事例を参考に、最小限の備蓄を、独自に確保することが望ましい。

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の尊厳を守り、その人らしく過ごせるよう対応している。個室に職員が入室する際は、本人の許可を得るよう指導している。	個々の人格を尊重し、敬語を使うように心がけ、指示的口調や態度、価値観を押し付けないように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のいろいろな場面で、利用者様が自己決定できるよう、利用者様自身が選択できるような声かけを行っている。状況に応じて表を作ったり筆談で対応する方もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入床時間等は特に決まっていなく、レクリエーションへの参加なども同様であり、本人が選択できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛用している眼鏡や時計などがきちんと装着できるように援助している。利用者様個々の服装の好みなども把握しながら対応している。家族にも協力を得て外出着も用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、利用者専用の意見箱を設置し、意見を取り入れながら行っている。配膳の準備は担当を決めて行っている。後片付けの可能な利用者様が他の利用者様の片付けを手伝ったり、利用者様同士で協力される姿もみられる。	利用者の好みを聴いて献立に取り入れている。お茶やおしぼり配り、配膳などを手伝っている。職員は、見守りと楽しい雰囲気づくりに専念し、誕生会や行事食づくりでは、利用者も一緒に加わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては、摂取量を記録し把握している。また食べやすい形状に調理する等の工夫をしている。水分摂取に関しても、いつでも水分を摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じた口腔ケアを実施し、口腔内が清潔に保てるように支援している。また必要時は歯科の受診を援助している。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個別対応している。オムツ使用の方でも日中はトイレで排泄できるよう援助を行っている。特に夜間の尿汚染が目立っていた方が、職員の声かけと援助する時間の工夫により改善されてきた。	個々のパターンに応じて、トイレで排泄できるように支援をしている。自立の人と、見守りや介助の人がいるので、状態に応じた対応をしている。夜間の失禁対策では、タイミングよく声をかけ、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては、記録に記載し看護師を中心として職員が把握している。便秘予防に十分な水分摂取、適度な運動の機会が確保できるよう取り組んでいる。また出来る限りトイレで排便が促せるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は、プライバシーの配慮はもちろん、入浴日ではなくても本人の希望があった時には、入浴していただけるように取り組んでいる。	入浴は、週に3回であるが、希望により柔軟に支援をしている。重度者7名は、リフト付の浴槽を使い、満足してもらっている。拒む人は、無理せず、気分転換を工夫して対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、身体状況など考慮し心地よく安眠できるよう取り組んでいる。日中、夜間ともに入床に関しては利用者の意向を尊重しているが、生活のリズムが崩れないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者個々の内服薬が把握できているよう、各利用者記録にお薬手帳、説明書が保管されている。看護師が利用者の状態を把握し、主治医、薬剤師と密に連携し取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については、ケアプランに上げ、本人とも話し合いながら取り組んでいる。楽しみについては、どんな事がやりたいか等、利用者様の意見を取り入れて行っている。また地域ボランティアの協力もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が多く持てるよう、天候の良い日は散歩に出かけたり、喫茶店に出かけたり、個人の買い物や支援、地域行事への参加、ご家族との外出の呼びかけなどを行っている。	事業所周辺のコースを散歩したり、喫茶店や買い物、高齢者サロン等へ出かけている。家族と協力して、近郊(かんぼの宿)へ日帰り旅行や花見、墓参りなど、個別の外出を支援している。	

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣の店へ買い物に出かける機会を定期的に作っている。それぞれ個々の能力に合った支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は、家族に連絡が取れるように支援をしている。馴染みの方から手紙が届くこともあり、返事が送れるような支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の整理整頓、清潔を心掛けている。また空調管理などこまめに行い快適に過ごせるよう取り組んでいる。リビングには四季折々の花を生けて、季節を感じるようにしている。	居間兼食堂であるが、天井が高く、広い空間を確保している。幼稚園児が作った貼り絵や利用者の習字、俳句を掲示している。大型テレビ前のソファで、ゆったりと寛ぎ、ウッドデッキに吊るした干し柿に季節を感じながら居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が快適であるよう家具などにもこだわっている。また外にはウッドデッキがあり、独りや、気の合った仲間とほっとできる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具等を持ち込んでいる方も多い。本人が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	居室には、馴染みの家具やテレビを持ち込んでいる。誕生日の色紙、家族やペットの写真、鏡などを落ち着けるように配置している。表札の上端に家族が作った造花を飾り、安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握し、利用者ができる限り安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		